教員養成の目標及び当該目標を達成するための計画

〇教員養成に対する理念

科学技術の進展や複雑化が自然環境や社会生活に与えるさまざまな影響を無視できなくなっている現在、単に科学技術の成果を享受するだけでなく、市民として科学技術を正しく理解し、生活のレベルで活用できる力を養うことが望まれる。本学の理工学部、情報工学部、メディア情報学部は、科学や技術への幅広い関心と理解を基盤に「実践的な専門性」を備えた中等教育教員の養成を通じて社会に貢献していくことを目指している。また、人間科学部では、いのちを大切にし、平和と環境を保持し、人類の持続可能な発展をもたらすため、「保育・教育」「発達・心理」「文化」「保健・福祉」「環境」について総合的に理解し、その向上に貢献できる豊かな感性としなやかな知性をそなえた高い専門性を持つ、自立した人材の養成を目指し、「理論」と「実践力」の双方を身につけた幼稚園教諭・保育士を養成することを目指している。

〇教職課程設置の趣旨、目標

「東京都市大学」は、 1929 年創設の「公正、自由、自治」を建学の精神とする「武蔵工業大学」と、1956 年創設の「科学的、自主的、健全」な女子教育をめざす「東横女子短期大学」が 2009 年に統合して誕生した。理工学部における堅実な技術者養成の伝統を有する本学の教職課程は、 一般的な教育学部とは異なる特色を有し、科学や技術を理論的・実践的な裏付けをもって教えることのできる教員の養成をめざしてきた。そして今日、「東京都市大学」グループとして、幼稚園から大学院までを擁する総合的な学園へと発展している。

「ものづくりの思想とそれを支える科学や技術」、「人間生活における科学技術の意義や役割」、「高い専門性をもった豊かな人間性と国際的なセンス」「生涯発達の基礎としてのコミュニケーション能力や表現力」といった本学の特色ある学問研究や教育実践を活かしつつ、「持続可能な社会発展」という視点を備えた教員の養成が教職課程を設置する理由であるとともに、本学の社会的な使命であると考えている。

○目標を達成するための特色ある取り組み（カリキュラム）

中等教育教員の養成する教職課程が設置されている理工学部、情報工学部、メディア情報学部の各学科では、理数系を中心とする高い専門性と実践力を有する技術者の育成に力を入れているとともに、持続可能な社会の実現に向けて様々な観点から教育・研究を進めている。

「教科に関する専門的事項」を扱う授業科目には、そうした特色が色濃く反映されており、例えば、科目区分「理１　物理学」であれば、「力学」（自然科学科）のような一般的な科目だけでなく、「医用電気回路」（医用工学科）、「原子炉物理学」（原子力安全工学科）」のような、当該学科ならではの科目が配置されている。こうした科目構成は、本学の「科学や技術を理論的・実践的な裏付けをもって教えることのできる教員」「持続可能な社会発展という視点を備えた教員」の養成という目標を達成するための特色の１つである。

「教育の基礎的理解に関する科目」では、科目区分①－３「教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）」において「教育社会学」「教育制度論」の２科目を、科目区分①－４「幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程」において「教育心理学」「発達心理学」の２科目を設置し、選択の幅を広げ、主体的な学修を促している。これらの科目は「必修の単位」は「2 単位」であるが、２科目履修して「4 単位」を修得する学生も少なくない。理工系の学生は人文社会的な基礎がやや弱いところがあるが、上記のような科目を開設・履修させることで、補うことをねらいとしている。

「大学が独自に設定する科目」としては、「介護等体験」（2 年次科目）と「教職総合ゼミナール」（3 年次科目）を開設している。「介護等体験」は、学生がノーマライゼイションへの理解を深め、共感的・受容的な人間関係の構築へと踏み出せるようになることが目標である。「介護等体験」は学生が最初に行う「学外での体験学習」となるため、常識やコミュニケーション力を養うことにも力を入れ、4 年次の「教育実習」へ橋渡しをしている。「教職総合ゼミナール」は、教育問題だけではなく、広く社会や人類に共通するテーマを設定し、学生が主体的に調査・研究を進め、また、ディスカッションやプレゼンテーションをすることを通じて、教員に求められる広い視野と方法論を学ばせている。

幼稚園教諭（一種）の養成課程を運営する人間科学部では、子育て支援センター「ぴっぴ」、「模擬保育スペース」、「農業体験用畑（演習用圃場）」などの学内施設を有効に活用し、乳幼児期の全人的な教育・保育に携わる者にとって重要となる、コミュニケーション能力・ 表現力・実践力の育成に力を入れている。